

教科	地理歴史	科目	地理総合	担当	
履修学年	1年	単位数	2	履修区分	普通科(必履修)
教科書	新地理総合(帝国書院)				
副教材等	高等学校新地理総合ノート(帝国書院) 最新地理図表GEO(第一学習社)				

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
--

2 学習評価

評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
a	知識・技能	基礎的・基本的な事項から正確な理解を図るとともに、日常的に地図を用いて分布など地理的事象の空間的広がりを理解する。
b	思考・判断・表現	思考力・判断力・表現力等の育成に向けて学習した事項を踏まえ、その背景やそれがもたらす影響などを考察し、意見の記述や議論する活動を行う。
c	主体的に学習に取り組む態度	現代の世界の実情を理解しグローバル化する社会で主体的に生きるため、グループ学習等を通じ主体性や興味・関心を持つ。

3 全体計画

期	月	単元	項目 (学習内容)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
				a	b	c		
前期	4	第1部 地図でとらえる現代世界	①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ②地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決する。	○	○	○	a緯度・経度を理解している b緯度・経度が生活に与える影響を表現できる a地図の種類を理解している b地図を用途別に使用することができる c積極的に授業に参加している	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など
		第1章 地図と地理情報システム						
		1節 地球上の位置と時差						
		2節 地図の役割と種類						
	5	第2章 結びつきを深める現代世界	①現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解する。 ②現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする。	○	○	○	a国境や領域、主権について理解している b国境や領域、主権について具体例を挙げることができる a国家間の関係変化や国連の役割について理解している b国家間の関係について具体例を挙げることができる c積極的に授業に参加している	
		1節 現代世界の国家と領域						
	2節 グローバル化する世界							
	6	第2部 国際理解と国際協力	①世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ②生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。	○	○	○	a国際理解の重要性を認識している b国際理解を行う方法について提案することができる a地形を形作る営力について理解している b地形を形作る営力について説明できる c積極的に授業に参加している	
		第1章 生活文化の多様性と国際理解						
		1節 世界の地形と人々の生活						
前期中間考査								
6	5	2節 世界の気候と人々の生活	③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。	○	○	○	a気候が生活に与える影響について理解している b気候が生活に与える影響を説明できる a言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解している b言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について説明できる a生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について理解している b生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が生活に与える影響について説明できる c積極的に授業に参加している	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など
		3節 世界の言語・宗教と人々の生活						
	4節 歴史的背景と人々の生活							
	5節 世界の産業と人々の生活							
前期末考査								

期	月	単元	項目 (学習内容)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
				a	b	c		
5	9	第2章 地球的課題と国際協力	①世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ②世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○	a地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の内容を理解している b地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決方法を発表できる a地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について理解している b地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について、多面的・多角的に考察し、表現している a世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴について理解している b世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴について考察している c積極的に授業に参加している	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など
		1節 複雑に絡み合う地球的課題					2節 地球的環境問題	
後期中間考査								
5	11	4節 人口問題	③地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする	○	○	○	a発展途上国の飢餓の問題、先進国に偏る食料の問題について理解している b発展途上国の飢餓の問題、先進国に偏る食料の問題について、多面的・多角的に考察し、表現している	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など
		5節 食糧問題					6節 都市・居住問題	
3	5	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	①我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 ②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。	○	○	○	aプレートが重なり合う日本列島、日本列島の背骨をなす山地、日本の河川と沖積平野について理解している bプレートが重なり合う日本列島について多面的・多角的に考察している a二つの震災と防災の取り組みについて理解しており、地理的技能を身に付けている b二つの震災と防災の取り組みについて多面的・多角的に考察し、表現している a火山の恵み・災害と共生する取り組みについて理解し、地理的技能を身に付けている b火山の恵み・災害と共生する取り組み、火山灰と共存する取り組みについて考察できる	授業参加態度 定期考査の得点 課題提出など
		第1章 自然環境と防災					1節 日本の自然環境	
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	①生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ②生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ③生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。	○	○	○	a地理的な課題の解決に向けての探究、地域調査の「問い」の設定について理解している b地理的な課題の解決に向けての探究、地域調査の「問い」の設定について、多面的・多角的に考察し、表現している c地理的な課題の解決に向けての探究、地域調査の「問い」の設定について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究している。	
		1節 生活圏の調査と地域の展望						
後期末考査								

4 評点の観点別配点(考査以外も含む合計)

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	40	40	40	40
b	30	30	30	30
c	30	30	30	30
計	100	100	100	100

5 授業や課題等に取り組む上での留意点

- ・授業の内容を正確に理解するために、集中して参加しましょう。
- ・提出物がある場合、確実に期限を守りましょう。
- ・授業への参加態度、提出物の有無、考査の点数を平均的に評価します。偏りの無いように留意してください。

※変更がある場合は、教科担任が事前に連絡します。